

企業理念にたつ地域密着型の貢献活動

三菱電機(株) 総務部

社会貢献推進グループ 相澤邦雄／多和田純子

三菱電機は、誰もが笑顔で過ごせる社会を創るために、みんながやさしさをもって新しい社会に共存できるように、「技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある人間社会の実現に貢献する」という企業理念に基づいた社会貢献活動を広く国内外でおこなっている。

特に社会福祉、地球環境保護、科学技術振興の3分野に重点をおき、地道な活動を通じ、地元へ貢献していきたいと考えている。

海外では、16年前の1991年に米国とタイに海外財団を設立、地域に密着した社会貢献活動を展開している。海外の各拠点でも、それぞれの地域に根ざした活動を着実に進めてきているが、これら財団主催による社会貢献活動やセミナー・研修会などを通じ、さらなる活動の活性化を図っている。

米国三菱電機財団は1991年に設立され、これまで、600万ドル(約7億円)を超える寄付を実施。米国の若年障害者支援のための多彩な活動を展開中である。

タイ三菱電機財団も1991年に設立された。同財団では、チュラロンコン大学をはじめ、タイの

3大学の学生45名を対象に毎年奨学金を支給している。学業優秀ながら家からの仕送りが少なく学業に支障がある学生が対象で、タイ国の科学技術の発展の一助となっている。

以下それぞれの財団の主な活動をご紹介します。

日本企業初のヘレン・ケラー実践賞

米国三菱電機は、ヘレン・ケラー生誕120周年にあたる2000年、日本企業として初めてヘレン・ケラー実践賞を受賞した。ヘレン・ケラー実践賞は、米国の非営利団体であるAmerican Foundation for the Blind (AFB) がヘレン・ケラーの偉業を称えるために、視覚障害者の生活向上に貢献した人や企業に、また、新しい生き方を築き上げた視覚障害者に毎年贈っているものである。



ヘレン・ケラー実践賞授賞式

米国三菱電機は、米国三菱電機財団を通じ、身体的・精神的に障害を持つ米国の若者を支援する各種の活動を、全米各地で展開している。今回の受賞は、1991年以来の同財団によるAFBのインターンシッププログラムへの支援活動が高く評価されたものである。

これまでの受賞者には、企業としては、GE、



米国三菱電機財団主催のセミナーを受講する海外拠点社員

Bank of America、Xerox 社が、また個人としては盲目のミュージシャン、スティービー・ワンダー氏、バーバラ・ブッシュ氏などがある。

米国議員事務所でのインターンシップ

インターンシッププログラムとは、学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験ができる制度である。企業にとっては、学生ならではの新鮮なアイデアを吸収できるなどのメリットがあり、一方学生にとっては、企業の実情を知ることによって、仕事に対する興味・関心、学習意欲を高められると同時に、ビジネスマナーや職業意識を身につけられるなど、双方に意義のある制度である。

米国では、大多数の大学で教育課程にインターンシップが組み込まれているため、ほとんどの学生は在学中にインターンシップを経験する機会に恵まれる。しかしながら、人気のある制度ゆえに障害を持つ学生にとっては、ハードルが高く、希望しても参加が叶わないケースが多くあった。そこで米国三菱電機財団は、障害を持つ学生にもできるだけインターンシップの機会が与えられるようにと、米国議員事務所でのインターンシップを手がけていた団体に対し、2002年から支援を開始。期間は8週間で、これまで30人を送り込んでいる。障害を持つ学生にとっては、ビジネスマナーや職業意識を身につけられるなど貴重な体験を得ることができる。学生の中には、インターン



米国国会議員事務所インターンシッププログラムで活動するインターン生

期間中の活躍が派遣先の上院議員に認められ、卒業後、同議員事務所に職員として採用されているケースもある。

同プログラムは、障害を持つ人々の能力に対する社会の認識を変えるという側面においても重要な役割を果たしている。

小学校への昼食支援プログラム

タイ三菱電機財団では、タイの小学校30校へ毎年各1万パーツを寄付している。そのお金は



野菜を栽培するタイの子どもたち

肥料や飼料の購入代として充てられ、それらを使って、財団および当社現地拠点社員が、小学生と一緒に野菜の栽培や家畜の飼育をおこなっている。

でき上がった収穫物は、貧困のために昼食が充分にとれない小学生の給食へ充てられ、子どもたちは食材を育てることを通じて、努力することの必要性やものを大切にする心を学び、育てることの楽しさも知ることができる。

単なる寄付で終わらない、このユニークなプログラムは、当社現地拠点社員からの評判も良い。「子どもたちの笑顔を見ていると、日頃の仕事の疲れも吹っ飛び、本当に参加してよかった」と参加した社員は笑顔で語る。

“子どもたちが将来大人になったとき、この活動で自分の感じたことや学んだことを次の世代に伝えていけるような人間に育ってくれたら…”。それが、タイ三菱電機財団の願いである。

さまざまな活動を通じた人々との出会いは私たち社員を成長させ、三菱電機の新しい力にもなっていくと考えている。

◆三菱電機の社会貢献活動

<http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/>